

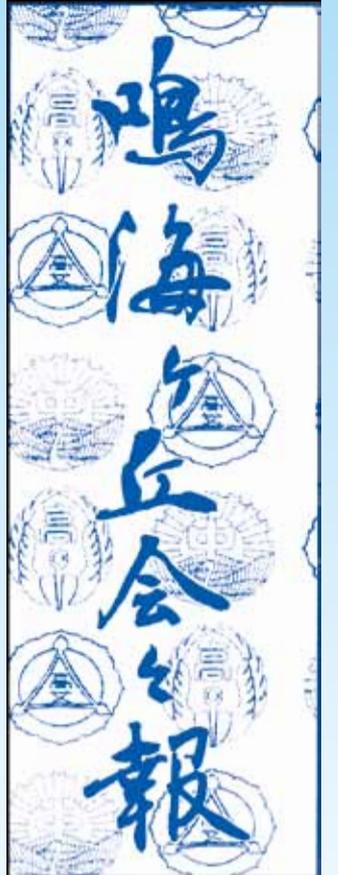
平成27年度 高鍋高校OB祭 道標(みちしるべ) ～一步一步踏みしめて～



8月15日(土) 記念講演 『身近にある大切なもの』

講師 渡部陽一さん (戦場カメラマン/ジャーナリスト)

1972年9月1日、静岡県富士市生まれ。
戦争の悲劇とそこで生活する民の生きた声を体験し、世界の人々に伝えるジャーナリスト。
学生時代から世界の紛争地域を中心に取材を始める。
イラク戦争では米軍従軍取材を経験し、世界情勢の流れを現場で取材し続けている。



発行 宮崎県立高鍋高等学校 同窓会
宮崎県児湯郡高鍋町 大字北高鍋 4 2 6 2
TEL 0983・23・0005
FAX 0983・23・5096
URL <http://www.narumigaoka.jp/>

OB祭日程

- ◆平成27年8月14日(金)
7:25～終日 OB祭ゴルフコンペ
会場：宮崎座論梅GC
- ◆平成27年8月15日(土)
12:30～13:30 ①鳴海ヶ丘会総会
場所：高鍋町中央公民館会議室
14:00～ ②OB祭
場所：高鍋町中央公民館ホール
14:00～14:45 オープニングイベント
ジャズシンガー 黒木美紀氏ライブ(H11年卒)
15:00～16:30 記念講演会
講師：戦場カメラマン・ジャーナリスト 渡部陽一氏
17:30～19:30 ③OB祭懇親会
(17:00受付開始) 場所：ホテル四季亭

主催：鳴海ヶ丘会(宮崎県立高鍋高等学校同窓会)
主管：平成27年度高鍋高校OB祭実行委員会(平成4年卒)
後援：高鍋町

Special Jazz Live

ジャズシンガー 黒木美紀さん

高鍋高校平成11年卒。20歳の頃から地元のライブハウスを中心に活動を始め、さまざまな音楽に触れる。
23歳の頃よりドラマーの宮園昌彦氏に師事し、ヴォーカルユニット「Modi-3」のメンバーとなる。その後2008年にニューヨークへ渡り、パリー・ハリス(p)、桐生ナブ子(vo)、天野昇子(vo)各氏に師事。2014年東京に居を移し、本格的な音楽活動を開始する。
天性の歌唱力と、そのクールな外見からは想像も出来ない天然の明るさが魅力のニューフェースである。



平成27年度 高鍋高校OB祭の開催について

平成27年度高鍋高校 OB祭実行委員会 実行委員長 中村 昭人

平成27年度高鍋高校OB祭実行委員会を代表しましてご挨拶申し上げます。私ども平成4年卒業生は一昨年の11月に準備委員会を立ち上げ、歴史ある高鍋高校のOB祭を担う喜びと大きな責任を背負いながら、同窓生一丸となり準備を進めて参りました。この間、多くの先輩方や学校関係の皆様を支えていただきましたことを、この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、今年度のOB祭では「道標・一步一步踏みしめて」をテーマに掲げました。高鍋高校は安永7年(1778年)に創立された藩校「明倫堂」の建学の精神を受け継ぎ「有為な人材」の育成に務めてきました。平成23年には返還義務のない「明倫奨学金制度」を設け、人物、学力ともに優秀であり、経済的な理由から修学が難しい高鍋高校卒業生の支援を行っております。この先人たちの崇高なる精神は、90年を越える高鍋高校の歴史と伝統の礎となり、後に続く者の道標となってきました。

このテーマには、私たちも先人の教えに学び、後に続く後輩たちの道標となり、地域や社会の中で一歩づつ着実に歩みを進めて行きたいとの思いが込められております。記念講演では、戦場カメラマンとしても知られるジャーナリストの渡部陽一氏を講師としてお招きし、「身近にある大切なもの」をテーマに、今世界で起きている紛争の現実、人間の持つ愛の深さ、命の大切さ、生きることの素晴らしさを伝えていただきます。

今年度は戦後70周年の節目の年であり、また講演日である8月15日は終戦記念日でもあります。当日は多くの皆さまに会場に足を運んで頂き、渡部氏の話に耳を傾けて頂きたいと思っております。また、オープニングイベントでは、高鍋高校出身(H11年卒)であり、東京で活動するジャズシンガーの黒木美紀氏のスペシャルジャズライブを企画いたしました。バックに構えるバンドメンバーも宮崎出身者や宮崎に縁のある著名な方々です。バンドが奏でるシックな音楽と、黒木氏の魅力的な天性の歌声をお楽しみください。

その他、恒例のゴルフコンペや大懇親会など盛りだくさんの内容をご用意し、皆さまのお越しをお待ちしております。いよいよ本番まであと僅かとなりました。同窓生一丸となって最後まで精一杯取り組んでまいりますので、皆様の変わりぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。最後にになりましたが、高鍋高等学校と鳴海ヶ丘会の更なる発展と、皆様のご健勝をお祈りいたしましてご挨拶とさせていただきます。



なんきんはぜ

現在母校に勤務しているが、職員室の自分の席から並木道が見える。季節は夏である。ナンキンハゼの緑と青空のコントラストが美しい。(T.I)

同窓会の皆様へ



校長 早日渡 志郎

県内有数の結束力を誇る同窓会「鳴海ヶ丘会」会員の皆様には、日頃より本校発展のため、「明倫奨学金」の創設をはじめ多大な御支援を賜り、篤くお礼申し上げます。

歴史と伝統そして実績を誇る本校の同窓会員は3万人を超え、県内はもとより国内外の各方面、各界で御活躍されていることは在校生の誇りであり、また励みにもなっています。

現在、本校は創立90周年の節目を過ぎ、新たに普通科探究科学コースを設置し、次なる100周年へ向け、まさに更なる飛躍と発展のときを迎えています。昨年度より「古豪復活」を合い言葉に、先輩の方々が残していただいた足跡を辿り、古くは明倫堂の「本当に人の役に立つ人材を育成することが最も重要で人材が育てば国は豊かになる」との精神を継承し、学習や部活動での実績を確かに向上させているところです。

さて、同窓会の伝統行事である恒例の「平成27年度高鍋高校OB祭」が近づいてまいりました。今年のOB祭のテーマは「道標（みちしるべ）〜一歩一歩踏みしめて〜」です。先輩方の足跡が道標となり、高鍋高校が結んだめぐりあわせを大切に育てていくきっかけがOB祭であり、今年もまた、盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げますと同時に、未来に向かってその絆が一層深まっていくなことを期待しています。そして、在校生一人ひとりの明るい未来も一歩一歩切り拓かれていくことを確信しています。

最後になりますが、中村実行委員長をはじめOB祭実行委員のみなさんの、並々ならぬ準備や御苦労に対し感謝申し上げますとともに、高鍋高校同窓会「鳴海ヶ丘会」のますますの御発展と会員の皆様の御健勝・御活躍を祈念申し上げます、挨拶といたします。

平成26年度 鳴海ヶ丘会館収支決算報告書

収入金額 1,654,198円
支出金額 1,370,107円
繰越金額 284,091円

収入の部

Table with 3 columns: 項目, 金額, 備考. Rows include 繰越金, 高校同窓会, 会館使用料, 雑収入, 合計.

支出の部

Table with 3 columns: 項目, 金額, 備考. Rows include 燃料費, 電気料, 水道料, 防災費, 修繕費, 火災保険料, 消耗品・備品費, 合計.

平成26年度 高鍋高校同窓会「明倫奨学金」収支決算報告書

収入金額 12,209,462円
支出金額 723,316円
繰越金額 11,486,146円

収入の部

Table with 3 columns: 項目, 金額, 備考. Rows include 繰越金, 寄付金(高信), 寄付金(郵貯), 雑収入, 合計.

支出の部

Table with 3 columns: 項目, 金額, 備考. Rows include 明倫奨学金, 明倫奨学金, 合計.



明倫奨学金報告とお礼について

同窓会事務局長 猪股 司

明倫奨学金に多くの有志の方々より寄付を賜り、誠にありがとうございました。

今年3月末に4人目の奨学生が誕生いたしました。

この奨学金制度は皆様の寄付金によって賄われております。どうか今後とも変わらぬ御支援のほどお願い申し上げます。

明倫奨学金振込口座について

引き続き寄付金を募集いたしております。振込口座は次の通りです。

(1) 高鍋信用金庫

銀行名 高鍋信用金庫本店 (店番号001)
口座番号 1360949
口座名義 高鍋高校同窓会 育英会
代表 増田 秀文

※寄付金から手数料を差し引いた金額をお振り込みください。

(2) ゆうちよ銀行

銀行名 ゆうちよ銀行
口座番号 01700-9-141513
加入者名 宮崎県立高鍋高等学校同窓会
「鳴海ヶ丘会」

※寄付金から手数料を差し引いた金額をお振り込みになるか、事務局が用意いたしました専用払込取扱票をご利用ください。

平成26年度 同窓会費収支決算書

収入金額 3,810,559円
支出金額 3,751,584円
繰越金額 58,975円

収入の部

Table with 5 columns: 費目, 予算額, 決算額, 増減, 摘要. Rows include 会費, 繰越金, 特別収入, 雑収入, 合計.

支出の部

Table with 5 columns: 費目, 予算額, 決算額, 残額, 摘要. Rows include 事務費, 会議費, 事務局費, 事業費, 内訳 (OB祭関係費, 支部援助費, 卒業生費, 事業推進委員会費, 広報費, 人件費, ホームページ管理費), 鳴海ヶ丘会館維持費, 旅費, 特別積立金, 改修積立費, 雑費, 予備費, 合計.

(収支) 3,810,559円 - 3,751,584円 = 58,975円 (繰越金額)

平成26年度 鳴海ヶ丘会 事業報告

Table with 4 columns: 日付, 曜日, 内容, 出席者. Rows list various events from April to March, including meetings, conferences, and festivals.

表彰関係

平成27年度宮崎県高等学校総合体育大会

| | |
|-------|--------------------------------------|
| ラグビー部 | 準優勝【九州大会】 |
| ホッケー部 | 優勝【九州大会】 |
| ボート部 | 団体 男子 総合優勝【全国大会】 |
| | 団体 女子 総合優勝【全国大会】 |
| | 団体 男子舵手付きクオドルプル 第2位【九州大会】 |
| | 団体 女子舵手付きクオドルプル 第2位【九州大会】 |
| | 団体 男子ダブルスカル 優勝(平山・藤岡)【全国大会】 |
| 剣道部 | 個人 男子ダブルスカル 優勝(進・藤元)【全国大会】 |
| | 個人 男子シングルスカル 優勝 兒玉【全国大会】 |
| | 個人 女子シングルスカル 優勝 松島【全国大会】 |
| 陸上部 | 団体 女子団体 第3位 |
| | 個人 男子個人 ベスト8 斎藤【九州大会】 |
| 陸上部 | 個人 八種競技 優勝 河野【南九州大会】 |
| | 団体 4×400Mリレー 第4位(橋口・鍋倉・田中・河野)【南九州大会】 |

宮崎県高校ジュニア選手権

| | |
|-----|-------------------------------|
| 陸上部 | 個人 八種競技 優勝 河野 |
| 陸上部 | 団体 4×400Mリレー 第4位(橋口・鍋倉・田中・河野) |

平成27年度県北地区高等学校弓道競技大会

| | |
|-----|--------|
| 弓道部 | 第2位 福野 |
|-----|--------|

平成27年度県北高校生バレーボール春季大会

| | |
|--------|-----|
| 男子バレー部 | 準優勝 |
| 女子バレー部 | 優勝 |

成田山全国競書大会

| | |
|-----|-------------------|
| 書道部 | 推薦 稲木 特選 齊藤・田口 |
|-----|-------------------|

第33回宮崎県高等学校席上揮毫大会

| | |
|-----|--|
| 書道部 | 団体 第4位 |
| | 第2位 黒木 |
| | 第4位 西脇 |
| | 優秀賞 矢原・田口・馬渡・佐坂・黒水・島田・高島・西森・村上・濱本・永岡・小崎・松山・齊藤・久保田・吉岡・宮崎・平岡 |

【全国高校総合文化祭に向けて】

齊藤 忠

高鍋高校の放送部は、日頃の集会等での放送の準備や、週2回の昼の放送を行っています。また、年間3回行われる大会に備えて、企画・取材・編集を放送室や町内等で行っています。最近の大会では、「高校生の視線で見た地域社会」をテーマにして、ドキュメンタリーなどをつくっています。今回は、7月31日から滋賀県で行われる全国総合文化祭へ参加します。

全国の壁は、厚く厳しいものですが、来年以降も全国大会に参加できるようにがんばっていききたいと思います。また、番組は様々な方からの情報提供や取材で成り立っています。ご協力をお願いします。

【全国大会に向けて】

井上 亮

セブンス全国大会に向けて多くの苦労がありました。雨が続き、グラウンド状況が悪く思い通りの練習ができない状況の中チームが一丸となり、試合を想定したプレーを意識して雰囲気よく練習に取り組むことができました。今は全国大会出場を決め、初心に返って毎日の練習を必死にひたむきに取り組んでいます。

全国大会では、自分達よりも体の大きな選手ばかりですが、持ち味である、ランニングラグビー・ハイテンポアタックで立ち向かい走り勝ちます。

日頃支えてくださる先生方、保護者の方々、OB会の方々に感謝し、管平に行けない仲間の分まで一戦一戦、必死に最後までプレーし、3日間闘いぬきたいと思えます。

【つながらる想い】

高木 美里

「全国大会に出たい」この想いが強いチームで挑んだ九州大会。この春、私自身も母校である高鍋での勤務となり、大先輩で恩師の鯨島先生と共にホッケーに関わることができ喜びに胸がいっぱいな中、二・三年生の八人と対面した。最低でも三人の新入部員がない限り、県予選さえ出場する。これまできない状況の中、「全国へ」の想いが伝わる練習内容と選手たちの姿勢がそこにあった。待望の部員と共に予選を突破し、九州大会への出場権を得ることができた。

予選リーグ敗退という結果ではあったものの、優勝チームから先取点をとることができた。この時の手応えを胸に、想いは「国体出場へ」とつながる。

【全国大会へむけて】

松島 美奈

ボート部が高鍋高校で発足して4年目があった。当初は周囲からの好奇の目を気にしながらの活動も少しずつ慣れてきた。今は自身を持って活動している。私たちの練習場所は学校から8km離れた海にあり、ここで宮崎県より艇をお借りして日々の練習に取り組んでいますが、艇の老朽化の為試合においてはとても不利な状況になります。そんな中で勝ち取ったインターハイへの切符。毎日の移動は雨だろうが、晴れだろうが大変でした。他の部活が10分始まる練習も移動と準備で1時間遅れたスタートでした。そのような状況の中で少しでも練習の質を上げて工夫しました。まだまだ歴史の浅いチームですが、困難に負けずに全国へ挑戦して行くことと思えます。



明倫奨学生 近況報告

平成26年度奨学生

馬渡 大輝

大学に入学して早くも1年が経つ。2月初旬の期末試験を終え、約2ヶ月の長い春休みも残りわずかとなった。後期では、学園祭や部活の合宿など、行事面で充実したものが多かった。また、講義においても科学実験が始まり、理学部の学生としてやりがいを感じながら楽しむことができた。総じて、後期では前期の学業面の反省を活かして計画的に勉強することができた。ここからは主に春休みについて述べる。春休みに入ってから東南アジアに一人旅を3週間の日程で敢行した。特に明確な目的があったわけではないが、初めての海外という経験もあり、非日常を味わえたことは単純にいい経験となった。中でも、旅の途中で問題に直面したときにそれを解決する力や日本語を使わずにコミュニケーションをとる上での課題など経験したことには多かった。特に英語に関しては、大学受験でストップしていた部分が伸びたため勉強へのモチベーションも高まった。もう一つの春休みのイベントとして、先日名古屋で開催された委員長会議がある。これについて簡単に説明すると、年に一度旧帝大が一堂に会して開かれる「七大戦」のための会議である。ここでは主に、「七大戦」のあり方や予算の承認などを行った。他大学の学生との親睦を深めたり、部活を含めた大学の代表としてこの場に集ることができたことは貴重な体験となった。ちなみに明日から部活の合宿で屋久島へ行くことになっており、まだまだ春休みを充実させることができそうである。これまでのように、日程において高校では体験できないことであり、現在の自分のおかれた環境に感謝したい。最後に2年次からは専攻の講義が始まる、否応なしに今までより忙しくなるため、本業に集中して勉強を進めていきたい。

平成25年度奨学生

青木 哲平

今学期は、主に現在住んでいる九州大学仏教青年会寮での活動とゼミにおける活動に重点を注いだ。まず、寮では地域に貢献するという名のもとに日頃からボランティアを行っているが、冬にはその大きなもの一つとして、地域の方をもてなす「寮祭」を開催した。これは、いわゆる高校での文化祭の延長のようなものだが、高校生の頃と決定的に違うのは生活リズムやスタイルが違いない。定期的な集まりが意外と難しい他の寮生との予定調整が難航した点である。それでも一つ一つの作り上げることには大きな感動があった。また、他にも寮では毎週日曜日に地域の学生の勉強を指導する塾のようなものも開いており、塾の講師役にもなった。受験を控えた生徒の勉強を見てあげるのは緊張したがこちらも得るものが多くいい経験になっている。

平成24年度奨学生

葦押 大地

今年の4月に大学生活最後の1年を迎えます。高鍋高校を卒業し、広島大学に入学し、そして、現在はアメリカで勉強に励んでいます。このように、現在、アメリカのネバダ大学リノ校に広島大学の交換留学プログラムを利用して、10ヶ月間の留学をしています。大学入学の当初から、留学することは一つの目標であり、それが叶った

今は、喜びとこれまで支えてくれた人への感謝の気持ちを持ちながら留学生活を過ごしています。初めての海外生活は大変苦勞しましたが、現在は充実した日々を過ごすことができています。もちろん授業は現地の学生と受けており、話す英語のスピードについては聞き取ることに苦労は、ほとんど問題はありませんが、英語を話すことにまだまだ苦勞を感じており、言語の難しさを痛感しているところ。英語で授業を受けることで、日本にいた時よりも、予習復習をする時間が圧倒的に増え、また授業後に先生のもとに行き、質問をする機会も増えました。

英語での勉強は大変ではありますが、アメリカで勉強できることに大きな喜びを感じながら、日々楽しく勉強に取り組んでいます。これまでの留学生活において、特に感じていることは、「コミュニケーションの大切さ」です。「意見は伝えなければ、伝わらない」という当たり前の原則の重要性を再確認できたと思います。日本にいた時は、日本独特の「空気を読む」というコミュニケーションの方法がありましたが、阿吽の呼吸とも言うことができると思っています。

しかし、ここアメリカではそのコミュニケーションの方法は通用しないことを、これまでの生活の中で感じています。自分の意見を言うことが当たり前に、自分の考えを相手に知って欲しいのであれば、言葉にして伝える必要はあります。この経験を通過して、日本とは異なる「コミュニケーションの大切さ」に気づくことができました。

留学生活も残り3ヶ月を切り、帰国が刻々と近づいてきています。日本に帰った時に、「留学して意味があったのか?」という質問を自分に投げかけ、納得のいく答えを出せるように、残りの日々を大切に過ごしていきたいと思えます。また、帰国後すぐに就職活動に取り組み予定ですが、人生の大きな分岐点のひとつである就職活動に力を注いでいきたいと思えます。最後になりましたが、このように充実した留学生活を送ることができていたのも、「明倫奨学金」のおかげだと、強く感じています。改めて、心から感謝申し上げます。